

高齢者サービスについてのアンケート調査結果

対象団体数：28団体

回答団体数：25団体

回答率：89.3%

平成26年8月1日から平成26年9月5日まで

「団塊の世代」が75歳以上となる平成37年に向け、国は高齢者の方の生活を地域全体で支えていくために「地域包括ケアシステム」を構築するように各自治体に働きかけています。「地域包括ケアシステム」の構築に際しては、地域のNPOやボランティア団体等、多様な団体との協力のもと、高齢者サービスを提供することが検討事項とされています。

寒川町においても、地域全体で高齢者を支援し、安心して暮らすことができる仕組みづくりに向けて、地域のボランティア団体の方々に将来的な高齢者サービスの提供について、日頃の活動のご経験を踏まえ、ご意見をお伺いするために本調査を実施しました。

【各設問の選択肢から1つを選んで回答してください】

問1.

貴団体において、地域の高齢者に向けた見守りボランティア（安否確認のための自宅訪問等）を行ってみたいと思いますか。

- ア. 興味がある（※具体的な条件等も）
- イ. 既に類似の活動を行っている（※内容も）
- ウ. やってみたいとは思わない

回答結果 (団体)

ア	7
イ	3
ウ	14
無回答	1
合計	25

【担当考察】

全ての質問に共通することだが、各ボランティア団体は、それぞれ特定の目的をもって設立された団体であり、新しい高齢者向けサービスを実施できる余力のある団体は見当たらない。後述する協議体の中で、新規にボランティアによる高齢者サービスの母体をどのようにするかを考えていく必要がある。

ア. 具体的な条件等

- 興味はありますが、ボラ連に加入しているグループはそれぞれに日々のグループの活動があるので、検討をすすめるには、いろいろ課題があると思います。
- 災害時の避難・安否確認体制の確立等直接的な関係もあり、非常に関心がある。上部団体の神奈川災害ボランティアネットワークの情報でも他の地域では、各地域ネットが高齢者の安否確認体制の構築を行っているところもある。本来は協力して生活できる基盤の上に、災害時の諸問題を考えるべきであるが、現状では災害時等の対応も平行して進める必要があると考えます。
- 自宅近所であれば行ってみたい
- 社協が主体的に取り組む、というよりは社協から自治会等へ普及啓発し、地域で自然に取り組んでもらえるようになると良い。内容としては、町が主導で町全体に呼びかけていただけたら、より良いと思います…
- 担当地域を決め、いくつかのグループ分け、順番に声掛けをする等、ボランティア自身の健康維持にも繋がると思う。
- 地域毎に別れてグループを作っているのですが、地域毎に見守りは可能だと思うが、女性が多いので、移動の方法を考えなくては無理があるように思われます。
- 条件など記載なし（1団体）

イ. 既に類似の活動を行っている

- (代表個人として)近所に1人での生活の方が居られるので、日頃から声掛けをしている(3戸)
- 在宅の見守りが必要な高齢者に対し定期的に訪問し、話相手及び相談を行う。
- 高齢者福祉施設を定期的に訪問し、入所者のお手伝い等を行う。

問2.

貴団体において、地域の高齢者に向けた軽度の家事支援ボランティア（買い物、調理、ゴミ出し等）を行ってみたいと思いますか。

ア. 興味がある（※具体的な条件等も）

イ. 既に類似の活動を行っている（※内容も）

ウ. やってみたいとは思わない

回答結果 (団体)

回答結果	(団体)
ア	7
イ	3
ウ	14
無回答	1
合計	25

【担当考察】

社会福祉協議会において、「サポートさむかわ」というボランティア派遣サービスが既に実施されている。高齢者のみまたは障がい者のみ世帯を対象としており、このサービスがある環境で、新規にボランティアサービスを立ち上げる必要性の有無等を、協議体で検討する必要がある。

ア. 具体的な条件等

- 家庭の中に踏み込むので、なかなか難しいように思われます。よほど理解がないと争いの原因になるのでは。
- 具体的な活動の項目は色々と思うが、ボランティア本来の寄り添い自立支援をするという考えに立つと、ボランティア活動と同時に高齢者自身が自発的に活動（生活活動）して行く環境づくりを推進する必要がある。個人的には他の団体において同様の活動を行っている。又、実際にこのような家事支援ボランティアが主なニーズであれば個人的には行ってみたいと思う。
- 自宅近所で自治会の方から声掛けがあれば行ってみたい
- 社協のサポート寒川のように、ボラセンに情報を集め、登録している人に連絡をとり、行ってもらうという方法が良いかと思います。（日時、時間、内容等）拠点、場所をつくり、人を配置する必要があると思います。
- 買い物に連れて行く、車輛の提供、保険の加入など
- (問1と同様) 興味はありますが、ボラ連に加入しているグループはそれぞれに日々のグループの活動があるので、検討をすすめるには、いろいろ課題があると思います。
- 条件など記載なし（1団体）

イ. 既に類似の活動を行っている

- (代表個人として) 買い物に出る際、必要な物は有るかを聞いて、求められた品物を買届けたり、資源ゴミの様な重い物等、収集場所が遠いので持って出ている。
- 社協ボランティアセンターで行っている事業「サポートさむかわ」がある。但し、調理は行わない。
- 自治会と協力・連携して買い物支援を行っている。週2回、車と運転手を確保（登録8人）し、近隣の大規模スーパー等で買い物を行う。・1回約10人が利用。料金として1回200円、保険料年間2,000円を負担して頂く。

問3.

貴団体において、**地域の高齢者に食事支援ボランティア（配食サービスや、給食サービスの提供）**を行ってみたいと思いますか。

- ア. 興味がある（※具体的な条件等も）
- イ. 既に類似の活動を行っている（※内容も）
- ウ. やってみたいとは思わない

回答結果 (団体)

回答結果	(団体)
ア	6
イ	0
ウ	18
無回答	1
合計	25

【担当考察】

過去に存在した“むすび会”の例を挙げる団体が多くみられた。配食サービスは、現在、町事業として業者に委託をしているが、その委託先の候補としてボランティアが考えられるかについては、協議体において検討する必要がある。

ア. 具体的な条件等

- 以前、むすび会という宅配サービスを行っていましたが、色々な事情で活動を休止してしまいましたが、やってみたい方々がある様でしたら、是非、またやってみたいと思います。宅配業者現在では色々ありますが、ボランティアの手作りということとは違うと思います。その為に、調理場の確保と、助成金も必要と思われれます。むすび会活動中はお年寄りに大変よろこばれましたので。
- 一日限定、数食という形であれば出来るかもしれない。
- 過去に類似の活動をしていたボランティアグループ”むすび会”がありました。月に1度でも、地域の方が直接手渡して届けるぬくもりのあるお弁当が好評でした。再びそのような活動ができるかどうか…また、ニーズがあるかどうか…社協として取り組む為には、組織上の問題、課題と人・物・金の整備が必須です。
- 高齢者の方が不自由を感じ、求められる具体的な要因があるのであれば、持って行くことは良いと感じるが、基本、自立の妨げにならないことも大切。(代表個人として)家でカレーを作った日は届けている、時に、おかずも一品届けたりも。
- 団体の活動目的からは当該活動は難しい。町内において同様の活動が以前あったように記憶しているが、今はどうなっているのか不明。今後必要になると思われるサービスと考えられるが、何故縮小してしまったのか疑問である。もし、再度検討するのであれば、同じ轍を踏まない事前検討が必要。
- 以前、ボラ連の加入グループの1つだった”むすび会”の活動が、月1回の高齢者むけの手作り弁当のお届けでした。会員の皆さん同士、素晴らしい活動ね、と称え合っていました。…。

問4.

貴団体において、地域の高齢者が気軽に訪れ、お茶や軽食、会話などを楽しむことが出来る地域交流の場所の運営を行いたいと思いますか。

ア. 興味がある（※具体的な条件等も）

イ. 既に類似の活動を行っている（※内容も）

ウ. やってみたいとは思わない

回答結果 (団体)

回答結果	(団体)
ア	8
イ	7
ウ	9
無回答	1
合計	24

【担当考察】

現在、いくつかの自治会において運営されている地域サロンがそのまま、地域の高齢者の憩いの場所として有用であるように思われる。高齢介護課としても、各地のサロンの実情を伺っていきたい。

ア. 具体的な条件等

- お手伝いくらいは出来るが、運営は無理
- 現状、興味はあるが、メンバー内で親が高齢者であり、介護にかかわったりしているので、協力出来るメンバーは少数だが、必要性は高いと感じている。高齢者に限らず、縦の年齢との交流の場の必要性を感じます。
- 行事へ参加して頂く形でなら出来るかもしれない。
- 団体としては難しいと思いますが、私個人としては興味があります。あまり高齢者のみと限定しないで、若いお母さんなども自由に入出入りできる場所で交流が広がると良いと思います。
- 弊団体自体高齢者が多い。全体では20代～80代であるが、平均は50代後半、最高齢は80才。だが、皆いきいきと発言し、活動している。場の提供は必要なことではあるが、目的ではない。何をしに集まる場所かを当事者を含め検討していきたいと思います。現在他の団体において検討中。
- (問1と同様) 興味はありますが、ボラ連に加入しているグループはそれぞれに日々のグループの活動があるので、検討をすすめるには、いろいろ課題があると思います。
- 場所の確保、会員(運営委員)の確保及び指導・育成、予算(お茶代、事務費等)の確保

イ. 既に類似の活動を行っている

- さむかわCom(パソコン定期教室)
- すいせん1の会ではありませんが、大曲自治会の大曲サロンを任されて運営しております。軽食とはいきませんが、お茶とお菓子でとても会話が弾んでおります。このような場所を大勢の方が歩いて来られる距離にあればと、やってみて感じております。
- 月1回交流会(手話による)を実施している
- 月2回(第2,4火曜日)食事(カレーライス、コーヒー、紅茶)を媒体としたひろばを開催中
- 社協が自治会に助成金を交付し、小地域福祉活動の取り組みをお願いしています。すでに18の自治会が関わっています。
- 倉見自治会のサロンに年3,4回、岡田新町ミニサロンに年3,4回、筒井自治会に年3,4回など、運営はしていないが、参加はしている。

問5.

貴団体において、地域の高齢者の心身の健康を促進するための健康体操等の教室を行ってみたいと思いますか。

(※内容については、効果があると考えられる場合、体操のみに限定しない)

ア. 興味がある(※具体的な条件等も)

イ. 既に類似の活動を行っている(※内容も)

ウ. やってみたいとは思わない

回答結果 (団体)

回答結果	(団体)
ア	6
イ	4
ウ	15
無回答	0
合計	25

【担当考察】

介護予防事業の担い手として、定期的な教室運営を実施出来る団体があるかは、今後も調査を行っていく必要があると感じた。現行の介護予防事業ではカバーしきれない、恒常的な運動などの機会提供や、その情報提供を行える仕組みを考えていきたい。

ア. 具体的な条件等

- 興味はあるものの…組織として取り組むためには、人・物・金の整備が必要です。専門的な知識をもったインストラクターをおくような形であれば、実施できるかもしれませんが…
- 行事へ参加して頂くかたちでなら出来るかもしれない。
- 体操も必要かと思いますが、みんなで歌ったり(カラオケでなく)会話する事が第一と思います。
- (問1と同様) 興味はありますが、ボラ連に加入しているグループはそれぞれに日々のグループの活動があるので、検討をすすめるには、いろいろ課題があると思います。平成27年度にむけて、ボラ連主催の体操教室の企画をしていこうとは会員で話しています。
- (問4と同様) 弊団体自体高齢者が多い。全体では20代~80代であるが、平均は50代後半、最高齢は80才。だが、皆いきいきと発言し、活動している。場の提供は必要なことではあるが、目的ではない。何をしに集まる場所かを当事者を含め検討していきたいと思います。
- 幼児向けに人形的やエプロンシアターを使って食育を行っていますが、高齢者向けの内容で楽しくお話をを行うことは可能かと思います。

イ. 既に類似の活動を行っている

- 健康教室を年2回。ワクワク体操、盆踊り、フォークダンス等。
- 車椅子ダンスの効用はボランティアをする人自身の健康につながり、介護予防費節約に通じる。高齢者との交流コミュニケーションが生活の中に楽しみを増す。認知症の方にも「楽しい時間」はココロの安定となる。
- 椿の花サロンや、高齢者スポーツ大会、福祉ふれあいフェスティバルなど、全部ではないが、自治会館などで体操や口体操など
- 歌って回想健康法(歌いながら健康体操を行うことで認知症の予防を図る)を各単位クラブで年28回、参加者約20名/回
- 高齢者健康体操教室(健康体操で閉じこもりや寝たきり防止を図る)を年32回、参加者80名/1回

問6.

貴団体において、**認知症の高齢者がいる家族のサポート**を行ってみたいと思いますか。

- ア. 興味がある（※具体的な条件等も）
- イ. 既に類似の活動を行っている（※内容も）
- ウ. やってみたいとは思わない

回答結果 (団体)

ア	7
イ	2
ウ	13
無回答	3
合計	25

【担当考察】

具体的なサポート内容について設問では触れなかったためか、回答ではこのような活動をしてみたいという例はあまり出なかった。団体自体の高齢化について触れている回答がいくつかの設問で見られる。高齢者が高齢者に対してサービスを提供する、といった概念の普及についても方策を考えていく必要があると思われる。

ア. 具体的な条件等

- (代表個人として) 認知症は個人差があり、特に症状に差があるので、家族の SOS にどう対応するのかが求められると思います。情報の共有などサポートに幅が有ると思う。
- まず、話を聞くこと、休ませてあげる事だと思います。そして、サポートをする場合は、いろいろと前もって勉強をしなくてはいけないと思います。
- 以前、同様の活動を行っていたが、介護保険制度が出来たので中止とした。メンバーが少なくなり、高齢化してきたため。
- 私たちのグループも会員が高齢となっておりますので、お互い様ですので、出来るうちはお役に立ちたいです。
- 認知症サポーターの講座は受講したい。具体的にグループとしての活動はイメージ出来ないが、まずはサポーターとしての知識を得たい。
- 病気の介護ということであると専門的な知識もなく無理で有るが、ご家族の支援なら出来そうな気がします。支援の内容によりますが。
- 条件など記載なし (1 団体)

イ. 既に類似の活動を行っている

- ボラ連に加入している”赤とんぼ会”は認知症の方への関わりが活動の主です。ボラ連としては認知症サポーター養成講座を受講しました。
- 問合せ等があれば、地域包括支援センターの職員とも連携しながら情報の提供はしています。個人登録ボランティアを対象とした認知症サポーター養成講座も行いました。

問7.

貴団体において、今までの設問でお伺いした内容以外に**地域の高齢者に向けて提供してみたい内容があれば自由にお書きください。**

(※今後、このような内容であれば、協力が可能といったことをお書きください。)

- ひとり暮らし高齢者の日々の安否確認（自治会長からの相談を受けることも…孤独死など）、生涯現役が叫ばれていますが、高齢者の方も気軽に参加出来るボランティア活動や支え合い活動をボランティアセンターでコーディネートできれば…
- サポート YOU は NPO 法人ともだちの応援団として、バザー時などの手作り品を作製しているグループです。現在8名で活動していますが、うち6名が60～70代なので、高齢者福祉に関しては人ごとではなく、活動中の話題にもなります。すでに、いろいろなボランティア活動に参加している方がほとんどなので、出来る事があればご協力できるのではないかと思います。いただいた着物等で作った小物などを展示販売する機会とかがあれば、お店に行けない方に買い物を楽しんでいただけるのにね、と話しています。
- ボラ連の会員で会合をもつと、“今後のボランティア”、また“グループの担い手は”、“男性のボランティアをどうしたら増やせるか”、“ボラ連として、もっと何かできたらいいが…”との声があがります。今後も徐々に高齢化していますが、皆さんの気持ちとエネルギーをほどよく出し合って、高齢者をまきこんだ新しい企画ができればいいなと思います。
- 過去、自治会の高齢者サロンに出向かせて頂きました。童心にかえり、手遊びをしたり、紙芝居を嬉しそうに観たり、歌を歌ったり、布おもちゃにふれたりと様々な姿を見せて頂きました。施設訪問では指人形を手で動かしたり、布ボールのキャッチボールを楽しんだりしていました。集団での関わりと個人では違うので、求められる近所の方とは人間関係を続けていくことが大切で、こちらが提供する内容ではないのではなく、何を求められているかを収集しこれからの支援に活かしていくことが大切に感じます。
- 現在、送迎ボランティアグループとして、ボラ連にも加入し、活動しているが、我々の活動出来る時間が就業前後と限られて（会員は会社勤務のため）おり、ニーズと一致させることが難しい。ニーズと合えば今後も行っていきたい。
- 私達のグループは点訳、小中学校の福祉教育のお手伝い等、活動としては精一杯な状況なので、団体としてお手伝いする事はむずかしいかもしれません。個人的に、また、別の形で何かお手伝いできたらと思っています。
- 自分の内に閉じこもってしまう人が多いので、話を聞く会など、口を聞いたりなんでも聞いてあげるような、なんでも聞く会などがあればいいのでは…
- 車椅子ダンスを通して、施設訪問を初めて17年になります。どの施設も利用者さん、職員がたが我々の訪問を心待ちにしてくれています。この活動を継承して欲しいと願いながら、後継者がおりません。高齢者でも出来るやさしい振り、楽しい曲、会話がメインですので高齢者ボランティアとして町民の多くの方にこの活動を理解して参加して欲しいと思っています。
- 先日、ボランティアセンターよりの依頼で、らいふ寒川倉見の夏祭りで盆踊りをしました。そのような盆踊りやフラダンス、健康体操等でよければ提供にみたいと思います。婦人会も高齢化してますので、この位しか協力できませんが宜しくお願いします。
- 全般的な設問のような内容は、個々の団体が対応するものを主にお考えのようであるが、目指している目的として高齢者も一緒に生活できるまちづくりと捉えたいと思います。個々の団体

が得意分野にのみ注力した活動をするのも良いが寒川町全体としての高齢者支援をトータルに観ていく組織の必要性を感じます。出来る事から少しずつという言い方も解りますが、出来るようにするアプローチも合わせて検討していけるような活動であれば協力してみたいと思います。ボランティア活動といえば、ボランティアコーディネーター、ボランティア団体と言えば、活動と運営であり、それを支えていくのは”人・物・金”であると考えております。また、現在もこのようなサービスは社会福祉協議会が主に行っており、ボランティアセンターという部署も社会福祉協議会内部に有ると思います。現組織の強化・活用が一番の近道のような気がします。

- 問4にも書かせていただきましたが、身近な場所に気軽に立ち寄り、お茶や楽しくおしゃべりが出来る場所があれば良いと思います。核家族化で日常会話が少なくなっている様です、そんな方に寄っていただければ！！私自身、高齢ですが、今元気で過ごせて感謝しております。将来にはやはり、会話する仲間が必要と感じておりますので。
- 来年度からの地域包括ケアシステムを稼働実現するのが今回のこのアンケート調査の目的と推察します。多くの方とお話していると、寒川に批判的な話をされる方は他町村の良いところと寒川の悪いところを比較しているケースが多い。私は中小企業診断士として、県内市町村を主に「見える化」を行ってきました。寒川の良いところは沢山あります。更に圏央道により災害時に他からのあるいは、他地域へのサポート可病院への距離の近いこと、平地面積が多く、行政運営にはたぐいまれな地域（その他具体的利点）など、地図、グラフ化などでお役に立ちたいと思っています。
- 老人クラブの活動は、会員を中心とした事業が主でしたが、今後は会員以外の高齢者の方にも参加していただく事業を考えています。具体的な内容については検討中。
- 高齢者の社会参加活動の推進。以前、町より高齢者ガーデニング教室を受託していたが、現在は自主事業として運営している。

問8.

今後、将来的な高齢者向けサービスの整備を行うため、定期的な情報の共有・連携強化を目的として協議体を置くことが想定していますが、貴団体として、それらの会議に委員として参加してみたいと思いますか。

- ア. 委員として参加してみたい
- イ. 高齢者向けサービスに興味はあるが、委員として参加したいとは思わない
- ウ. 委員として参加はしてみたいと思うが、高齢者向けサービスは提供できない
- エ. やってみたいとは思わない

回答結果	(団体)
ア	7
イ	7
ウ	1
エ	7
無回答	3
合計	25